

プロジェクト報告書

【締切:プロジェクト終了後1か月以内。もしくは 2012年4月30日】

団体名

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. プロジェクト名

子供能楽教室～謡と仕舞にチャレンジ！マスターしよう！

2. プロジェクトの目的とその背景 300文字まで

昨今能楽は一見盛んに見えるが、稽古する人口、鑑賞する人口共に高齢化により減少する一方で新しい能楽人口を獲得するのは至難のことである。本プロジェクトはそのような認識のもと、小中学生を対象に「能楽の楽しみ」を知ってもらい継続的な活動として学校に働きかけ、その成功事例を持って横展開・縦展開することにより国民の「文化」を「遺産」に留めず継承発展を図るものである。

3. プロジェクトの内容 300文字まで

能楽体験教室 実施内容

- ① 「能ってなあに？」 能楽の歴史、成り立ち、衣装、面、物語、囃子、配役などの解説
- ② 「能を見てみましょう」 鶴亀座会員の演能ビデオ、および謡、仕舞、囃子の鑑賞
- ③ 「能をやってみよう」 子供たちを班に分け謡、仕舞の体験学習
- ④ 「能を覚えよう」 鶴亀座員による、謡のテープ、能「羽衣」のDVDを渡し、謡い、舞えるよう指導する
- ⑤ 「能を発表しよう」 1月28日、能楽体験教室で「謡」「仕舞」「小鼓」の体験・発表を行なう

4. プロジェクト実施にあたっての工夫点とその効果 300文字まで

当初3年～6年生を対象にPTAなどの土曜講座を活用して、複数回の講座を企画したが、応募がなく学校と相談、6年生1学年に対する事前学習・練習と23年1月の体験・発表講座に計画が縮小してしまった。しかしながら効果は①鶴亀座部員による能「羽衣」のDVD化などにより、従来の謡・仕舞中心の公演からより本物に近い視覚が好評②仕舞の体験についても本物の仕舞扇を用意し、従来の不揃いな扇子から進んだ体験ができた③ほぼ全員の児童が初めての体験で「謡」「仕舞」「鼓」「能」についての感動を率直に感想文にしてくださいました鶴亀座発足以来、記念すべき50回目の公演を有意義に終えることができました。

5. 全体的所感、終了しての感想など 300文字まで

700年続く能楽の継承のため、そのすそ野を広げることが鶴亀座の使命として掲げて、ちょうど50回目の公演を第1回公演と同じ「萩山小学校」で行うことになったという感慨もあり、能楽師(プロ)との連携、複数回の体験講座、発表を目指したが、現実はやはりこの芸能に寄せる関心の低さの前に計画縮小を余儀なくされた。一方で我々の体験講座の歩みも遅々としたものではあるが進歩しつつあり、今回の児童の感想文を読むと今後ともチャレンジしてゆかねばという気持ちが強く残りました。萩山小学校からは当初企画を実現するため次年度5月12日に改めて、5、6年の2学年合同の能楽体験講座の実施についてご依頼があり、児童の土曜講座への参加を促し支援するというありがたいご提案を頂戴しました。

6. 参考資料

支援対象プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等は現物またはコピー、活動風景の写真を参考資料として提供してください。

○参考資料あり

能楽体験教室

